

すぎなみ大人“熟”してる？

Jukusiteru? TIMES'16

平成28年12月7日発行

発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

第14号



12月3日(土)

水曜夜コース

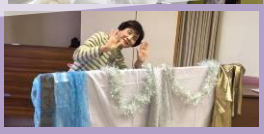
受講生 10名

参加者 15名

本日の流れ

- AM:準備(買出し・装飾)
- PM:公開イベント!

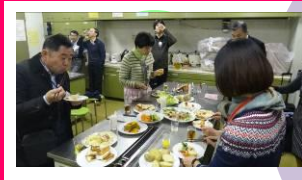
第13回【公開イベント】身体も心もレット・イット・ビー!



ついにイベント開催! 一般参加者15名! ヘルシーウォーク実施!



ジェットストリーム! ビートルズ談義! 麴調理! そして...



▼午前からの買い出しや、料理の下ごしらえ、部屋の装飾を経て、午後2時に公開イベント開始! ヘルシーウォークも実施され、飛び入りで参加した方も含めて15名が来場した。音楽に料理にと、参加者の「タマシイ」も上向きになったようだ!! (文章: 瀬山)



【上】Birthdayに合わせてチア。12月お誕生の方も3人!
【右】最後にタマシイチェック!



一般参加者による

写真: L(前準備) E(ヘルシーウォーク・司会) T(自己紹介) I(二つに分かれる) T(麴) B(めぐみさん・YOU MASUYAさん) E(2つのチーム一緒に食べて話す時間)

感想集

- ・発酵食品のお料理を教えていただき本当に良かったです。孫が豆腐が苦手なのですが、この豆腐がペーストなら喜んで食べてくれると思います。
- ・初対面の方と接することでも音楽や食事が間に入ると一気に仲良く、親しくなれますね。
- ・色々な世代の方々と一緒に食卓を囲むのはやっぱり幸せだと思いました。めぐみさんが笑顔いっぱい、大きな声でわかりやすい説明とおいしい料理の数々ありがとうございました。
- ・大好きなビートルズの話をしてとても楽しかったです。
- ・杉並区内で知り合いになりたい、つながりたいと思っている人たちが身近にいて出会えたのが良かったです。ビートルズのファンでしたし、発酵食もファンだったので、今日の出会いは楽しく発見がありました。

だがしや楽校入門編 ～気軽な“みせ開き”でまちに出よう～

第13回 ふりかえり～牧野先生をお迎えして～

講座も残すところあと2回。今日は、東京大学大学院の牧野篤先生をゲストにお迎えし、活動の振り返りを行った。さまざまな地域で「学び」を通じたコミュニティの活性化に取り組む先生の目に、だがしや楽校はどのように映ただろうか？

受講生からの活動報告

インドとのスカイプ通信が印象的だった杉十小でのだがしや楽校。人の生き方や考え方にじっくり触れる面白さを学んだ日直制。新しい関係が広がり、杉並や地域における自分自身の立ち位置を考え直す契機にもなった他地域との交流。お食事処「昌楽」との今後にもつながっていくゆるやかな関係ができた区役所うらでのだがしや楽校。こうした一年の流れやその思いを語り合った。「自分みせ」を通して子どもから大人まで様々な出会いをし、自分自身の新しい一面に気付き、またそれを地域に還元していく…。このような学びの循環が確かに育まれていると、皆さんの言葉から感じる事ができた。



《中学生からみた「だがしや楽校」のおとなたち》

今年度は、杉並のだがしや楽校としては初めて中学生の受講があった。彼女の目には、だがしや楽校に取り組む大人たちは「目が輝いて、若返って見える」と映ったようで、だがしや楽校は「進化形のままごと」とであるというじつにユニークかつ的確な表現をしてくれた。他にも、受講のきっかけをつくってくれたお母さんへの思いや、もっと地域の大人が学校に来てほしいなど、その言葉は私たち大人にとって大変示唆に富むものだった。

そんな彼女、「50年後はどんな大人になりたいか？」という質問に対しては…「**自分の趣味を自慢に思える大人になりたい**」と答えたとのこと。これはまさに地域を楽しむ大人塾のおとなたちの影響かも…!?



インタビューを紹介する谷原さん

小さな「社会」をたくさんつくる～牧野先生より～

後半は、前半の活動報告を受けて牧野先生にご講演いただいた。受講生と学校との関係づくり、というのは杉並のだがしや楽校の課題の一つだが、今回ご紹介いただいた事例は、学校を核に「大人が支え、子どもが主役になって地域をつくる」という点が特徴だ。自然体験や地元の企業の力を借りた科学ワークショップを通して子どもたちに地域への愛着を持ってもらい、大人になって地元に戻ってくる人が増えるような教育に取り組む市町村や、高校生が自ら地域課題を発見し、活性化に取り組む地域…。このように、学校を核に大人と子どもたちが接することで、信頼感を伴う確かなコミュニティが醸成されていくのだという。



一方で牧野先生は、コミュニティは地域と必ずしもつながっていないわけではないわけではない、ともお話された。趣味によるつながりだったり、様々な形のコミュニティが沢山あることで、社会は支えられていくのだという。

「だがしや楽校」の活動を通して、小さな活動からつながりが生まれていくことを実感してきた半年間。先生のお話は、こうした活動が豊かな社会につながっていくかもしれないという希望を抱かせてくれるものだった。次回はいよいよ最終回、これで終わりではなく、これから何が出来るか？じっくり話し合う機会としたい。(文:遠藤)